





社会福祉法人 龗済生会支部 鹿児島県済生会 **済生会鹿児島地域福祉センター**

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号 TEL.099-284-8250 FAX.099-284-8252 ⊒http://www.saiseikai-kg.jp



高齢期の住まいと生き方を考える

済生会鹿児島地域福祉センター所長

吉田 紀子

2020年の新年度を迎えました。

例年ならば、桜も次々に開花し、春爛漫の中、新入学生や新社会人を含め、新年度を迎える光景に心浮き立つ 季節ですが、今春は世界中で新型コロナウイルスと人類の戦いが拡大しています。

特に高齢者、障碍者、療養中の方々の施設や事業所ではご利用者様に感染者が出ないように、職員自身の健康管理と予防対策に細心の注意をはらいつつ、ご利用者様の健康管理とケアに努めております。「ウイルスをもらわない」、「うつさない」の合言葉で毎日頑張っております。

ご家族のご面会もままならぬ毎日が続いていますが、新型コロナウイルス感染症の一日も早い終息をめざして、 地域全体の皆様方と知恵を出し合い力を合わせてまいりましょう。

今号のテーマは「高齢期の住まい方」です。

住まいの問題はわが国では特に今後とも大きな課題と考えられます。

世界一高齢者率の高い我が国では、並行して独居高齢者と高齢者のみの世帯が大変増加しています。

特に鹿児島県では、独居高齢世帯は一般世帯数の15.3%(全国2位 平成27年)と多く、今後ますます増加の見込みです。さらに高齢者の84.7%は今後も現在の住居で生活したいと希望しておられます。

現在わが国では、2025年を目途に高齢者が要介護となっても住み慣れた地域で最後まで自分らしく生きられる地域社会をめざした地域包括ケアシステム作りが進められています。厚労省の図(2ページ)に示されているように、地域包括ケアシステムは大きく分けて次の6つの要素で構成されています。「①医療・看護」、「②介護・リハビリテーション」、「③保健・福祉」、「④介護予防・生活支援」、「⑤住まいと住まい方」、「⑥本人の選択と本人・家族の心構え」で、これらは植木鉢に例えて説明されています。

この植木鉢の図は、住み慣れた地域(できれば我が家)で人生の最後を過ごしたいという思いを満たすためにはという方向性で描かれ、この図の読み方は、図の下、受け皿の部分から読み取っていきます。

「本人の選択と覚悟」すなわち、高齢期になって未だ要介護状態になっていないころから、将来自分が虚弱となったらどこで(自宅で、または、ケアつき高齢者住宅で等)、どのように(外部のリハビリや通所介護サービスを活用しながら等)生活し、さらにその後、重度の要介護状態となったら特別養護老人ホーム(特養)や認知症グループホーム(グループホーム)へ入所など、あくまで本人が老後の過ごし方、最後の迎え方を自ら考え選び取っていくことが重要であるという意味が含まれています。

ご本人のその心構えの上に、安定した日常生活を送るには、まず生活の基盤である「住まい」の確保が重要であることから、住まいは植木鉢の鉢の部分に示されています。

その植木鉢の中には、高齢者が積極的に「介護予防」に取り組み、介護保険外の福祉・互助サービスや近隣住民同士の支えあいによる「生活支援」というかたちで地域の豊かな互助の土壌が満たされ、その上に専門家による質の高い介護・医療・リハビリなどの専門サービス提供(葉にあたる部分)を備え・活用していくことが重要となります。このように、考えると、安定した日常生活をおくるための住まいの問題は非常に重要となってきます。

要介護状態になる前から自分の居住の場の選択を自助努力と自己選択という形でしておくことが理想ですが、 しかしながら、現実は、「老後をあまり気にせず、何も準備しないまま自宅で暮らし、要介護状態になってから、介護 保険による住宅改修は一部行うが、成り行き任せで、最後は施設探しに奔走する」というパターンが未だよくみられる パターンです。



これからの高齢者の住まい方の自己選択としては大きく2つがあります。

一つは「自宅に住み続ける」という選択で、もう一つは「早めの住み替え」という選択です。

前者は心身の虚弱を自覚したら早めに自宅をニーズに応じてリフォーム・改善して自宅生活を中心としながら病院や介護予防デイサービス等を活用し、要介護状態になってもさらにデイケア・デイサービスや介護老人保健施設など介護保険サービス活用で最後まで自宅で過ごす。それでも自宅生活が限界となれば介護医療院、特養やグループホームへ入院・入所するというコースです。

後者は、心身の虚弱を自覚したころから早めに高齢者向け住宅等へ引っ越し、軽度要介護状態になったら外部サービスを受けながらサービス付き高齢者住宅等で生活し、その後要介護3以上の状態になったら特養やグループホームへ入所するというコースです。

前者の場合には、住宅で安定した老後の住まいが可能か否か、居住アセスメント(住宅の耐震構造等、バリアフリーの有無、温熱環境・省エネ状態、住宅外部環境など)を受け、一般的にはリフォームか建て替えが必要の場合が多いです。

後者の場合には、早めの高齢期の安定的住まいの場として、住宅型有料老人ホーム、介護付き有料老人ホーム、 軽費老人ホーム(ケアハウス)、高齢者向け優良賃貸住宅およびその後の後継として2011年にサービス付き高齢者 住宅が登場し、中コスト・中負担により、多くの独居高齢者等が入居できる住宅として全国に広がっております。

今号では済生会鹿児島地域福祉センターにおける取り組みをご紹介します。ケアハウスに加えて、当センターでは平成26年11月にサービス付き高齢者住宅(なでしこの杜)を開設いたしました。全国のサービス付き高齢者住宅では対象者やコスト・負担など様々ですが、済生会のなでしこの杜では独居など自宅での生活に不安な方や虚弱な高齢者の方々が、なるべく負担を抑え、安心安全な住環境の中で最後までその方らしく生きる自宅に近い場として過ごしていただけることをめざしています。軽度の要介護の方々も併設の定期巡回型ホームヘルプサービスや済生会

鹿児島病院等の医療サービスを活用するなどして、安心安全な環境で夫々のスタイルの生活を楽しんでおられます。

今後の目標は入居者様同士の互助活動や地域住民の 方々との交流活動を通じて、地域での我が家同様のもうー つの居場所となれるような取り組みです。

人は互いに交流し、繋がって生きることで生かされ生きる元気と勇気が湧いてきます。生活困窮者が急増し、今後も増加が見込まれる時代、人々、まず、高齢者や弱者が生活の基盤である住まいを確保し、自助・互助により共に生きる地域包括ケアの仕組みづくりに貢献したいと願っております。

皆様からのご提案をお待ちしております。今年度もどうか よろしくお願い申し上げます。







「高齢期の住まい方」



わが国は他国に見られないスピードで高齢化が進んでいます。65歳以上の高齢者の人口は、総人口の2割を超え、2030年には31%、2055年には40.5%まで高齢化が進展すると予測されています。超高齢社会を迎え、自分らしく安心して生活をするために「住まい」を考えることは重要なポイントとなります。住み慣れたご自宅で住み続けるか、子どもと同居を考えるのか、あるいは住み替えをするのか。住み替えるなら、何歳でどこに住み替えるのか、それぞれの価値観や置かれた状況(医療や介護の必要性など)にて多くの選択肢があります。

今回は、我が地域福祉センターの住宅型のサービスである"シルバーフラット武岡台"と"なでしこの杜"の紹介を交えながら、「住まい」を検討する際の一助となればと思います。

【高齢者向けの施設や住宅の種類と違い】

種 類	ポイント
介護付き有料老人ホーム	介護度に応じて定額で介護サービスを受けられる。 認知症や看取りなど幅広い対応が可能な場合が多い。
住宅型有料老人ホーム	入居者に合った介護サービスを選んで利用する。 比較的自立した方が対象。
サービス付き高齢者向け住宅	高齢者向け賃貸住宅である。安否確認や食事の提供も行う。 ※詳細は後述
軽費老人ホーム	低所得で独居生活の高齢者を対象とした施設。 「一般型・介護方」がある。 ※詳細は後述
グループホーム	認知症のある方専門の施設。 同一市町村に住民票がある方が入居の対象。
特別養護老人ホーム	養介護3以上の方が入居対象
介護老人保健施設	在宅復帰を目的としたリハビリを行う施設
介護医療院(介護療養型医療施設)	長期的な医療サービスを必要とする方向けの施設

シルバーフラット武岡台

シルバーフラット武岡台はケアハウス(軽費老人ホームC型)という施設になります。軽費老人ホームはA型、B型、ケアハウスと種類があり、A・B型は身よりのいない独居高齢者、もしくは家族からの支援を受けられない高齢者を対象とします。A型では食事提供サービスを受けることができますが、B型では食事提供がないため自炊をする必要があります。また、A型・B型共に要介護者は入居の対象外となるのが特徴です。

そして、ケアハウスは食事提供や見守りなどのサポートを受けることができます。ケアハウスは更に一般型と介護型に分かれ、一般型は基本的にほとんど介護を要しない人が入居の対象となります。介護型は要介護者を対象とし、常駐する介護スタッフから入浴や排泄などの介助を受けることが可能です。

シルバーフラット武岡台の特色

全室から桜島を眺める充実の環境 四季の移ろいを楽しみながら穏やかでゆったりとした時を刻む 安心と安らぎの時間をご用意

シルバーフラット武岡台は、武岡・明和2つの大型団地に隣接した都市郊外型のケアハウスです。60歳以上の方で自炊ができない程度の身体機能低下がみとめられ、おひとりで日常生活を送ることに不安がある方に入居していただき、食事の提供・入浴の準備・健康管理・日常生活における相談・援助など必要な支援を行っています。

居室は全室個室で、和室(畳敷)と洋室(フローリング)の2タイプとなり、最上階(5F)の大浴場・露天風呂は天然温泉で錦江湾に浮かぶ桜島を望みながら温泉浴をお楽しみいただけます。ケアハウスでは、入居者の皆様の介護予防を目的として、四季折々の行事のほか音楽喫茶・抹茶・書道・映画・園芸・カラオケなどの倶楽部活動を行っています。

ケアハウス利用料金 1ヶ月あたり、94,690円~

前年収入から租税・社会保険料・医療費・介護保険利用料等の必要経費を引いた金額により利用料金が決定。 ご利用料金に居住費・食事代などを含みます。別途水道代月額2000円を頂きます。 電気料金は、電力会社と個人契約になります。

居室で使用する電気代、日用品代等や介護保険を利用した場合の費用が必要となります。

生活相談・健康・介護に関する相談サービス

生活・健康に関する相談を随時お受けし、入居者様個々の健康状態の把握に努め、ご家族・介護支援サービス・ 主治医を始めとした医療機関等との連携を図ります。

必要時の内服管理支援、緊急時の救急搬送などの連携を図り、安心できる環境の提供に努めております。

食事は管理栄養士により管理された食事を提供。 季節を感じられるメニューの提供





クリスマス

ひな祭り

イベント・倶楽部活動の企画開催





定期的な外出・外食行事の提供





移動販売・個別宅配の連携。

外部ショッピングセンターへの送迎による買い物支援





なでしこの杜(サービス付き高齢者向け住宅)

サービス付き高齢者向け住宅(サ高住)とは、高齢者の単身・夫婦世帯を入居対象とするもので、安否確認や生活 相談などの高齢者の暮らしを支援するサービスが付いたバリアフリーの賃貸住宅です。

済生会なでしこの杜(以下、なでしこの杜)は、2014年11月に開設し6年目を迎え、ほぼ満床で稼働しています。 なでしこの杜は、皆様がよく耳にされる「地域包括ケアシステム」のサイクルの中、高齢者の「住まい」と言われるところ になります。超高齢化の社会中、年々高齢者の方々が増える状況で、高齢者の皆様が安心・安全に、そして何より健康 的に暮らし続けるための「住まい」を提供しています。

なでしこの杜には、介護認定の軽い方から重たい方まで多様な方々がお住まいです。建物の中には介護保険の サービス事業所が併設されている為、日常的な必要な介護や支援を受けることができます。医療ニーズの高い入居 者もいらっしゃいます。最後の時を住み慣れたご自身のお部屋で迎えられる方もいらっしゃいます。それも、建物内に 訪問看護ステーションがあることや、多くの在宅支援診療所との連携が図れているからです。

また、なでしこの杜では、入居者皆様に健康的に暮らして頂き、一人一人のQOLが少しでも向上できるように、 生活の支援をさせて頂いています。その中でも特に、食事の提供や各種行事の取り組みを大切にしています。食事 は管理栄養士と相談の上個別での相談にも応じています。行事食や松花堂弁当など工夫の中、皆様に美味しく食事 の時を楽しんでいただけるよう取り組んでいます。そして、入居者の皆様の生きがいや楽しみに少しでも繋がることが できるように、職員と入居者、入居者同士の触れ合いが図れるよう、誕生会や歌声喫茶、外食、ドライブ、ボランティア の方による慰問などを計画的に実施しています。

これから一層「高齢者の住まい」に臨まれる課題が増えると予測する中で、人生の最終ステージと言える大切な 時間を、穏やかに過ごして頂けるように努力していきたいと考えています。

【料金表】

1カ月(30日)あたり				,	
生活支援サービス		家賃	共益費	1ヵ月 合計	
生活把握·生活相談	食事代	水 貝	, 共 益 夏	0.01	
25,000円	48,000円	40,000円~	15,000円	128,000円~	



避難訓練の様子



ソーメン流しへ



歌声喫茶



普段の体操の様子

済生会サポートセンターなでしこ

"済生会サポートセンターなでしこ"は、定期巡回随時対応型訪問介護看護のサービスを提供する事業所です。 定期巡回随時対応型訪問介護看護とは、日常生活において、日々ヘルパー支援が必要となった場合、要介護の認 定を受けた方であれば、定期巡回随時対応型訪問介護看護のサービスを受けることができます。日々の支援として、 毎日の食事の声かけや食堂への移動の介助・見守り、起床・就寝時の介助、水分補給、更衣・排泄介助、深夜・早朝 の安否確認などが主な支援となっています。

これらのサービスを定期的に行う「定期巡回サービス」、ケアコール端末などによる通報で対応が必要な場合すぐに訪問し随時対応していく「随時訪問サービス」、ケアコール端末などによる通報で会話をし安否を確認、状況により訪問等の要否を判断し適切に対応していく「随時対応サービス」により安心した生活を送ることができるのではと思います。

訪問看護に関しては、連携型の体制をとっているため、必要に応じて別途契約が必要となりますが、状態に応じてサービスを受けることも可能となっております。

利用料金についは、要介護度によって負担額が異なり、1ヶ月ごとの定額制となります。(表1)

【表1】

要介護	定期巡回随時対応型 訪問介護看護費(II) 連携型	通所サービス利用時の 減算(1日につき)		
1	5,680単位	-62単位		
2	10,138単位	-111単位		
3	16,833単位	- 184単位		
4	21,293単位	-233単位		
5	25,752単位	- 281 単位		

(※1割負担の場合、1単位10円)

「地域ふくし連携型連帯保証提供事業における連帯保証と支援の提供」に関する協定を締結

2019年12月20日に困窮して住まいの確保が難しい人を支援する「NPO法人やどかりサポート鹿児島」と済生会鹿児島地域福祉センターが「地域ふくし連携型連帯保証提供事業における連帯保証と支援の提供」に関する協定を締結しました。

センター事業所の役割は、無事に住まいの確保ができた困窮者の方々への 日常の見守りや困窮者の方が地域と繋がり、安心して生活できるよう支援して いくことにあります。

福祉センターでは、地域包括ケア推進事業として平成28年より実施しているボランティア養成講座を卒業された修了生が、社会福祉士等専門の資格を有する職員と連携して定期的に利用者の方の様子を伺ったり、地域住民の方との交流を勧めるなどの支援を行っていきます。

今回の協定締結で、職員間でも生活に困窮する方々への意識がより一層 深まったように感じられました。

本当に必要な支援とは何なのか、支援する側も支援される側に立って、生活者の目線から困窮者の自立を支援できる体制づくりに尽力していきます。





第72回 済生会学会において、発表しました。

開催日時:令和2年2月9日

開催場所: 新潟市 朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター

今回は、特別養護老人ホーム高喜苑より、山下直也氏が発表者として参加し、ポスター発表をしてきました。

『テーマ』インカムを活用した業務改善の取り組み

特別養護老人ホーム高喜苑 介護福祉士 山下

- ◎平成9年8月に開設された従来型特養。平均年齢は88.8歳。最高齢は103歳となっており高齢化と、平均要介護度4.38と 重度化も進んできている。
- ◎建物の老朽化と居室が2階と3階に分かれ、食堂が別館にあるなど動線が悪く職員間の情報の共有がうまくとれない。介助 の応援をもらうにも時間がかかり、コール対応の遅れによるご入居者様への不安や離設行為などの危険な場面もあった。
- ◎職員間の情報伝達の手段として、PHSや内線電話を使用し対応していた。

目 的

- ◎「動線を簡潔にすること」「入居者様の不安の軽減と職員の満足度の向上」に焦点を当て取り組む。
- ◎インカムを導入する事により、職員間の連携のとりづらさと入居者様のニーズに速やかに応えられない二つの課題の改善を 図る。

方

法

- ◎職員へインカム導入の周知を図るため導入前に介護・医療・相談室を中心にチームを結成。
- ◎一か所に集まらず各フロアで入京者様の見守りを行いながら申し送りを行えるか試験的に実施。
- ◎導入後、職員の意識向上のため、操作方法・伝達方法マニュアルを作成、各部署へ配布。
- ◎インカムのメリット・デメリットについてアンケートを実施し、業務改善に繋がっているか各職員の満足度調査も行う。
- ◎コールの回数とコール鳴動時間のデータをインカム導入前と導入後に取り入居者様への満足へと繋がっているか(速やか な対応と事故の予防)、効果の分析。

結 果

ースコール件数】 (件数) 前後 40 ... SS 【ナースコー呼動時間合計】 (秒) 前後 600 ._. 500 ... 400 -270.2 ____ 200 42 --SS 三階 一階

【1コールあたりの反応時間】 12 10 三階 二階 SS

効 インカム導入による 果

- 遵入はじめは、「使いづらい」「使用方法がわからな い!「必要性を感じない!等の音見がみられていた が、導入後は「操作が簡単であること」「伝達がしやす いこと」が職員に理解されてきて賛成意見も増えた。
- ●使い慣れてきたことで、通常業務が円滑に進むように なり、行事やイベントでの活用もできるようになった。
- ●申し送りも各部署で行うことにより、見守り職員不在 のリスクも解消し離設の事故も減少した。
- ●コールの件数、鳴動時間、1コールあたりの反応時間 も減少した。

課 題

●中継機の電波状態で聞き取りにくいこともあった。 ●操作方法の周知ができておらず伝達が速やかに行

えないこともあった。

考

◎インカムを導入したことで、全職員が情報を瞬時に把握できるようになったことで、速やかに連携が取れるようになったと推 測される。

◎「コールの件数 | 「コールの鳴動時間の合計数 | 「1コールあたりの反応時間 |も減少し、速やかな連携とコール対応ができて 入居者様の不安が減少し安心と満足につながったのではないかと推測される。

まと め

- ◎通常業務が円滑に進むようになり、大きな行事やイベントでの活用もできるようになった。
- ◎コール対応が速やかになったことで、入居者様のニーズにも応えられるようなった。
- ◎今後の課題として、中継機の電波状態の改善と、職員の習熟度の向上に向けてマニュアルの更新と満足度調査・勉強会 の継続を行っていきたい。

令和元年度 第71回 済生会学会・総会報告

令和2年2月8日鹿児島から東京を経由して飛行機と新幹線を乗り継ぎ約4時間かけて新潟にいってきました。この日の新潟は今季1番の寒気が押し寄せ最低気温マイナス1度でした。今年の冬は、記録的な暖冬でしたが新幹線の車内からは見たこともない白銀の世界を目にしました。

今回の学会で済生会総裁の秋篠宮皇嗣殿下御臨席の下、第72回済生会学会・令和元年度済生会総会が、新潟市の朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターで開かれ、全国から約2300人が参加しました。

午後の総会では、炭谷茂済生会理事長の挨拶の後、秋篠宮皇嗣殿下から「おことば」を賜りました。 私は、インカム導入について発表をさせていただきました。全国済生会の中の特養でインカム導 入は3例目ということもあって、多くの方が発表を聞いていました。

インカムとはコミュニケーションツールの一つです。今回このインカムを導入にあたりチームを 結成し入居者様の安全の確保と満足度向上に向けて1年間取り組んでまいりました。導入当初は、 使いづらい、使用方法がわからないなどの意見が聞かれたため、勉強会の開催やマニュアル作成を 行ってきました。

行事や日々の業務の中で職員が徐々に必要性を感じるようになり、業務も以前より円滑に進むようになったと思われます。また、情報共有が瞬時にできるようになり、離苑リスクのある入居者様の所在がより早く把握でき、事故のリスク軽減もみられるようになりました。

今後も入居者の方々に安全で快適な生活が提供できるように業務にあたりたいと思います。

また、済生会に入職して10年が経ちました。この節目に入居者様・ご家族様・済生会に感謝し、 まだまだ未熟ものですが「ありがとう」と感謝され安全で思いやりのある介護を今後提供していき たいと思いますのでよろしくお願い致します。

高喜苑 山下 直也

全国の済生会の方々が一同に会し意見交換ができる、貴重な体験をすることが出来ました。 沢山のシンポジウムの中で、地域包括ケアの取り組みにおける活動報告に私は注目しました。 済生会地域包括ケアシステムをそれぞれ全国各地で町を巻き込んだ取り組み、済生会ならではの 実践的な活動の取り組みをされており、済生会地域包括ケア連携士の活躍が期待されているのだ と実感しました。鹿児島県済生会も医療・福祉の枠を超えた連携を深めていくことの重要性を感 じた学会でした。

高喜苑 上村 由里子

ご利用者満足度調査を実施しました

第11回 利用者満足度調査 集計結果

【実施対象者】福祉センターサービス利用者若しくはその家族

【実施期間】令和元年8月10日~令和元年9月30日

【回収方法】返送(返信用封筒にて)

ご利用(入居)者及びご家族の皆様へ

当センターが皆様に喜んで頂ける福祉サービスを提供することを目的に実施した第11回「ご利用者満足度調査」につきましては、数多くのご回答をいただきありがとうございました。心から感謝致しております。お寄せいただいた貴重なご意見・ご要望等につきましては、早急に検討させていただきまして改善すべく努めて参りますので、今後とも皆様方のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

済生会鹿児島地域福祉センター所長

1 調査基本情報

	人数
調査票配布数	721
調査票回収数	379
回収率	52.6%

2 利用者基本情報

	人数
男	90
女	241
無回答	39
合計	370

3 設問別 選択肢選択件数

【共通設問】

	①	2	3	4	(5)	無回答	合計
問1	1	2	74	46	243	4	370
問 2	3	1	65	51	246	4	370
問3	2	3	63	56	244	2	370
問4	2	1	63	76	222	6	370
問 5	3	10	85	76	194	2	370
問 6	0	3	59	73	224	11	370
問 7	2	2	62	56	237	11	370
問8	8	5	68	74	206	9	370
問 9	3	3	71	58	229	6	370
小計	24	30	610	566	2,045	55	3,330

※①良くない ②やや良くない ③普通 ④ほぼ良い ⑤良い

4 評価(満足度)

【共通設問の評価】

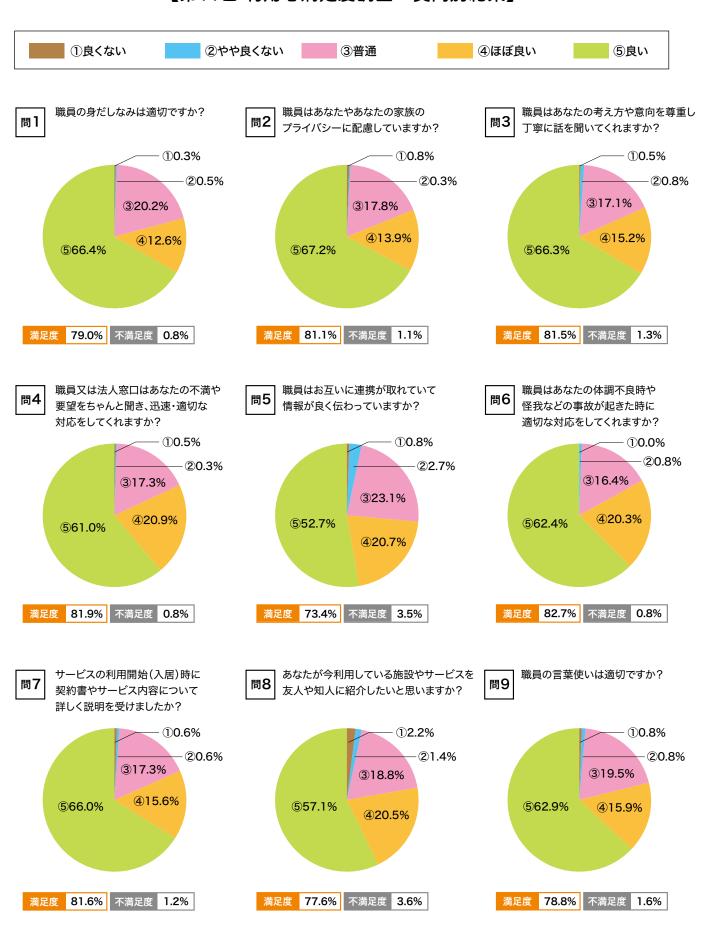
※「共通設問の評価」の算出方法 については次のとおり

(④と⑤の合計)×100

(合計 - 無回答数)

79.3%

【第11回 利用者満足度調査 質問別結果】



「救療済生」の済生会精神に則り、福祉に貢献する。

〈基本方針〉

- 1. 私達は、利用者から信頼され、満足していただける介護・福祉を目指して、常に利用者の 立場に立ち、利用者の気持ちになって介護を行います。
- 2. 私達は、利用者の権利を尊重し、その意思に添えるよう努めます。
- 3. 私達は、常に利用者の安全に気を配り、安心して介護が受けられるように努力します。
- 4. 私達は、最新の介護知識や介護技術の習得に研鑽します。
- 私達は、地域の人々と交流を図り、人々が求めている要望に応えられるよう努力します。

〈利用者の権利〉

- 1. その人格を尊重される権利があります。
- 2. 社会的地位・国籍・人種・宗教・性別などにより差別を受けることなく、公正・平等に介護 を受ける権利があります。
- 3. 自分が受けている介護に関するすべての情報について知る権利があります。
- 4. 自分に関するすべての個人的情報を守ってもらう権利があります。

特別養護老人ホーム 高喜苑

[介護老人福祉施設・短期入所生活介護事業所]

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

TEL 099-284-8253 FAX 099-284-8252

シルバーフラット武岡台

[軽費老人ホーム/ケアハウス]

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6870 FAX 099-283-6871

済生会なでしこの杜

〔サービス付き高齢者向け住宅〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-202-0710 FAX 099-283-4733

指定居宅介護支援センター高喜苑

〔指定居宅介護支援事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-4737 FAX 099-283-4733

グループホーム武岡5丁目

〔認知症対応型共同生活介護事業所〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目16番23号

TEL 099-282-6081 FAX 099-283-3533

グループホーム武岡ハイランド

〔認知症対応型共同生活介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-7231 FAX 099-283-7232

武岡台デイサービスセンター

[指定通所介護・予防型通所介護事業所]

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6880 FAX 099-283-6872

済生会ヘルスサポートセンター武岡

〔ミニデイ型通所介護・運動型通所介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6880 FAX 099-283-6872

なでしこ訪問看護ステーション

〔指定訪問看護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

ホームヘルプステーション 高喜苑

[指定訪問介護・予防型訪問介護事業所]

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6875 FAX 099-283-6876

済生会サポートセンターなでしこ

[定期巡回随時対応型訪問介護看護事業所]

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6875 FAX 099-283-6876

訪問給食センター 高喜苑

〔鹿児島市委託事業所・配食事業〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

TEL 099-283-4730 FAX 099-284-8255

鹿児島県済生会

〔支部〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

TEL 099-210-5460 FAX 099-210-5560

編集 後記

コロナウイルスによる新型肺炎が世界中で流行し、日本でも毎日多くの感染者がでております。 福祉センターでも十分な感染対策を行っております。ひとり一人の行動が感染を拡げないために 大切と言われております。

一日も早く、終息を迎えて、普段の日常が戻ってくるように、今は耐え忍びましょう!!

2020 SPRING